



## 杉田地区 ケーブル名に残る病院の名前

国道16号線から京急第2踏切に向かう道路の左側一帯に、「向生」と書かれたケーブル名が見られる。これは、平成5年頃まで杉田4丁目にあった「向生病院」の名前だ。昭和20年代初めに病院の建物を撮影した写真が残っている。それを見ると壁面に「日飛病院」と書かれているのが確認できる。

この病院はいろいろ興味深い歴史を持っている。昭和26年3月1日の神奈川新聞に、「日飛病院改め向生病院」という広告が掲載された。つまり、「日本飛行機」の附属病院だったのが、会社組織から独立して医療法人向生会向生病院になったのである。

この広告に書かれている住所は、磯子区森町、市電「白旗」前となっている。これによって杉田以外にも日飛病院があったことが分かる。2つの日飛病院が昭和26年に

向生病院となり、その後、森町の病院は廃止されて杉田が残ったのだ。しかし、それも30年ほど前に廃院となり、現在はNTTの電柱にその名をとどめているだけである。

最近、日飛病院はさらにその前身があり、昭和19年以前は「大雄山病院」（所在地：吉野町）だったことが分かった。ただ、大雄山最乗寺との関係は不明だが……。ところで、「向生」の意味・由来はなんだろうか。元理事長のご子息の話では、「瀕死の人も生きる道に向かう」との意味だそうだ。【参考：『日本医籍録第24版』他】



# 文化で つなぐ 地域の輪

ここは「社会福祉法人みどりのその」が運営する就労継続支援B型事業所。元日本蕎麦屋を改装したカフェだ。おしゃれな店内に流れるBGMはイージーリスニングで心地よい。テーブルの横には荷物を入れる籠が置かれアットホームなおもてなしが感じられる。飲み物の付く800円のランチの他、杉田梅ドリンク(450円)もおすすめ。 磯子区杉田1-11-28 ☎045-353-5565

### 路地裏のカフェ「たんぼぼ」

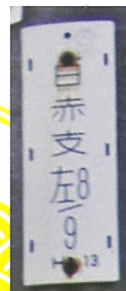


福祉の美味しい情報

根岸駅から山手駅方面にかけて並んで立っているNTTの電柱を見上げてほしい。そこに「日赤」と書かれたプレートが張り付いているのが確認できる。

根岸線の海側には、ENEOS株式会社根岸製油所のタンク群が広がっているが、この会社以前は

「日本石油」、略して「日石」と呼んでいた。そこでプレートの「日赤」は誤変換なのではないかという人も現れる。しかし実は以前、根岸線沿いに「横浜赤十字病院」があり、市民はここを「日赤病院」と呼んでいた。その名称がケーブル名として残されているのである。



## 日赤？ 日石？ 根岸地区

病院の歴史はかなり古く、明治45年に設立された根岸療養院をルーツとする。根岸の海岸は気候が温暖で古来より長寿の地といわれていた。そのため、市内各地から結核患者が民家に続々と療養に来たことで、知らぬ間に結核が蔓延してしまっていた。そこで結核の予防と治療を目的に、大村民蔵が私費を投じて根岸町2194番地に根岸療養院を開設した。

関東大震災では同施設も被害を受けたが、無事だった建物を日本赤十字社に無償で提供し、日赤の臨時病院となり傷病者の受け入れと治療を行った。その後、日赤がこれを買取り、横浜赤十字病院と改称し、平成17年まで地域の医療を支えてきた。【参考：『大村民蔵自伝』他】



### 種類が豊富な「パン屋のオヤジ」

若者の自立就労支援事業を多角的に展開しているNPOフェロップが運営する就労継続支援B型事業所。ここで売られているパンの種類は多く、どれも今すぐに食べたくなるようなものばかり。とくに惣菜コッペがおすすめ。本部ビル屋上では養蜂を行っており、そこで採れた蜂蜜が「おやつコッペ」に使われている。 磯子区西町14-3 ☎045-353-3351



福祉の美味しい情報



## 滝頭地区 伊勢山、万治というケーブル名は何か

伊勢山といえば、西区の伊勢山皇大神宮を思い浮かべるが、こんな名前ケーブルが存在しているということは、滝頭にも伊勢山があったのだろうか？ 昭和30年代の明細地図を見ると、広地と岡村の境界にこの名を付けた高台が描かれている。

『磯子の史話』の《伊勢山—はなれ山の項》には、こんなことが書いてある。「もとはもっと大きな山でしたが、岡村の町づくりをする頃、田を埋めるために削り取ったのです。山上には南面の台地に太神宮社、頂上には稲荷社がありました。この山には横穴古墳があって、大正14年に土取りをする時に発掘しました。そのことを記した碑ができましたが、いまは金蔵院に移してあります。掘ったところは伊勢山の南麓で、

ここは金蔵院の堂畑だったからです」

この伊勢山がケーブル名に残されているのだ。横浜市立脳卒中・神経脊椎センター近くでは、「万治」と書かれたプレートのついた電柱が並んでいる。これは平成3年に閉院した「万治病院」の名称なのだが、その前身は明治12年に和泉町（浦舟町）で開設された横浜避病院。その後、横浜市伝染病院と改称され、明治33年に横浜市万治病院と再改称された。そして大正11年、滝頭に移転してきた。その名称の由来は、「万病を治療する」だと思っていたが、実は最初に避病院のあった場所が吉田新田で、その埋め立てが始まったのが江戸時代の万治年間だったことによる。【参考：『横浜の疫病史』他】



### 福祉の美味しい情報

#### 手づくりパンの店「どーなつ」

障害児・者の豊かな地域生活を実現するための地域活動支援センター型の施設。運営はNPO法人「新」で、主に知的障害のある方が通所しており、焼きたてのパンを製造・販売している。食パンは1斤200円だが、そのお味は高級食パンにも負けない。菓子パンも種類が豊富だ。おすすめは黒カレーパン(120円)で、その豊かな風味と香りが嬉しい。 磯子区丸山2-10-1 ☎045-762-1135

